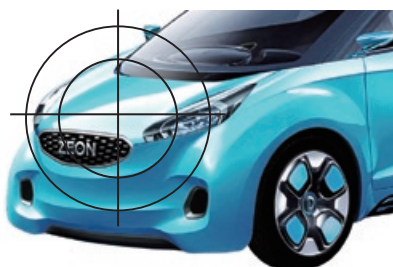
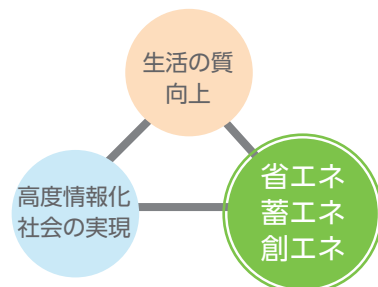


＼ 身近なところに日本ゼオン ＼

低燃費自動車を支える素材「アクリルゴム」 で省エネルギー社会の実現に貢献

アクリルゴムは、各種オイル周りのシール用やホース用のゴム材料として従来から自動車用途に使用されており、世界的な自動車生産台数の増加と長寿命化へのニーズに対応するために需要が拡大してきています。さらに、最近では低燃費化の動きに対応するために自動車エンジン内での燃焼温度の上昇、ターボチャージャーシステムの採用などが進み、これらのシステムに対応するために、耐熱性・耐油性にすぐれたアクリルゴムの需要はさらに高まっていくと予想されています。

特殊合成ゴムのトップブランドを確立した Zetpol® に続いて、アクリルゴムでも市場での確固たる地位を築き、省エネルギー社会の実現に大きく貢献してまいります。



ケンタッキー工場の生産能力を増強

Zeon Chemicals L.P. (米国) のケンタッキー工場のアクリルゴムプラント能力増強がこの7月に完了。従来の1.5倍となった生産能力で、世界的に拡大する需要にお応えしてまいります。



日本ゼオン株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)
〒100-8246 電話03 (3216) 1772



株主のみなさまへ

第89期 中間報告書

2013年4月1日 ▶ 2013年9月30日

日本ゼオン株式会社

証券コード：4205

世界に誇り得る独創的技術で お客様の夢と 快適な社会の実現に 貢献します。



取締役会長 古河直純 取締役社長 田中公章

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第89期中間期(2013年4月1日から2013年9月30日まで)の報告書をお届けいたします。

Q 2013年度も半分が経過しました。景気全般としてはアベノミクスが注目されましたが、御社の実績を振り返ってご解説ください。

A デジタル機器向け高機能材料が好調で、売上高は前年同期比17%増の1,484億円、経常利益は同76%増の182億円となりました。

2013年度上半期の売上高は、前年同期比17%増の1,484億円、経常利益は同76%増の182億円となりました。半期の売上高で1,400億円を超えたのはリーマンショック後では初めてとなります。世界的に燃える金融不安や新興国の景気鈍化懸念がまだ残る中ではありますが、ようやくリーマンショック前の水準回復が視野に入ってきました。円安転換、自動車生産の拡大、スマートフォンなど電子機器の急成長といった外部要因の改善に加え、徹底したコスト削減に伴う企業体質の強化が増収増益の主因と分析しております。特に、スマートフォンやタブレットPCといったデジタル機器向けの高機能材料は、当社が開発した世界初の技術をテコに、収益拡大の牽引役を果たしました。これを受け、中間配当は1株につき7円とさせていただきます。これは前年から1円の増配となります。

戦略面でも進展がありました。中期経営計画『SZ-20(エスゼット 20)』でエラストマー素材の事業戦略として掲げた「成長市場へのグローバル対応による強い事業の更なる強化」に向け、シンガポールのS-SBR新プラントが完工。初期商業運転を開始し、お客様への本格供給に向けて着実に歩を進めております。また、スマートフォンなどの光学用途に需要が急拡大している熱可塑性透明樹脂シクロオレフィンポリマー(COP)についても、その原料モノマーの生産能力増強を決定し、市場の拡大メリットを着実に獲得していく準備を進めています。

連結財務ハイライト

売上高	1,484億円	前年同期比 16.6%増	▲
経常利益	182億円	前年同期比 76.0%増	▲
当期利益	108億円	前年同期比 94.7%増	▲

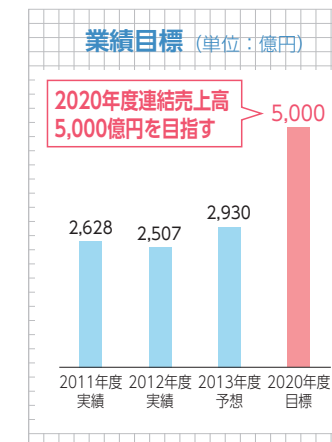
Q では下半期のお見通しはいかがでしょうか。

A 上半期に引き続き、高機能材料を柱に売上高では前年同期比で増収となる見通しです。

下半期は、為替が1ドル100円、ナフサ価格が1キロリットル63,000円を前提に、売上高が前年同期比17%増の1,446億円、経常利益は同21%減の118億円を計画しています。上半期に引き続き、自動車関連や光学用途の高機能材料などが増収の柱になると予想しています。

利益面では減益を想定していますが、これはエラストマー素材におけるアジアを中心とした海外市況の停滞を慎重に見込んだことが主因です。一方、高機能材料では技術優位をテコに順調に増益基調を維持する見通しです。米国の金融緩和縮小観測など世界経済の先行き不透明感は晴れず、当社グループを取り巻く事業環境は依然として楽観が許される状況にはありませんが、計画の着実な達成、そしてさらなる上乗せに向けての努力を最大限続けてまいります。

上半期と合計した2013年度通期では、売上高が前期比17%増の2,930億円、経常利益は同19%増の300億円と見込んでいます。



Q 光学フィルムは増収増益の柱と想定されていますが、この分野における競争力の源泉はどこにあるとお考えですか。

A コスト、性能において評価の高い製造技術を武器に、革新的な製品を生み出すことで、確固たる地位を築いていきます。

世界最先端を走る製造技術が競争力の源泉です。当社では1990年代に溶媒を使用しない画期的な方法(溶融押出法)で従来方法と比べて低コストの光学フィルム(ゼオノアフィルム®)の開発に成功し、光学フィルム事業に参入いたしました。その後も、ゼオノアフィルム®開発の技術をさらに進化させ、液晶テレビ向けに連続的な2方向延伸を実現した新ゼオノアフィルム®、スマートフォンやタブレットPC向けに斜めに延伸を課した斜め延伸位相差フィルムを立て続けに開発してまいりました。これらの技術はいずれも世界初となるもので、コスト、性能いずれにおいても市場でお客様から高い評価をいただいています。特に、斜め延伸位相差フィルムでは世界唯一の供給メーカーとして、社会に貢献しております。

今や、光学フィルムは成長著しいモバイル端末には必要不可欠な製品部材となっています。今後も技術開発を一層加速し、競合他社の追随を許さない革新的な製品、製造技術の研究開発を進めていく所存です。技術面で世界の先頭を走ることにより、この分野でのテクノロジーリーダーの地位を固めていきたいと考えています。

世界に誇るゼオンの技術 ～光学フィルム事業～

当社は2001年に光学フィルム事業に参入して以来、液晶画面の高性能化を実現すべく、さまざまな研究を重ねてきました。当時、液晶ディスプレイは斜め方向から見ると明るさが著しく減少したり、色調が変化したりと、多くの課題がありました。またモバイル用途では、屋外で使用する外光の反射の影響で画面が見えにくくなってしまいます。これらを解消するには、厚みにムラのない高精度の光学フィルムを使って、光の偏光をコントロールする必要がありました。日本ゼオンでは、これらの課題を解決するための3つの製造方法を世界で初めて確立し、テレビやカメラ、モバイル端末などといった光学フィルムを使用した電子機器の性能向上、普及拡大に貢献しています。

世界の先駆け

3つのオリジナル製造技術



自社製材料 COP樹脂

ゼオノアフィルム®

低コスト・高効率

高透明性、低複屈折、低波長分散、低光弾性などの優れた光学特性を有し、多種多様な電子機器に使用されている。

樹脂を溶かす ロールに巻き取る

光学フィルムの常識を覆す、溶媒を使用しない製造方法

① 溶融押出法

新ゼオノアフィルム®

大型化・高精度

画面の周囲の光漏れによるコントラスト低下の問題を克服したことで、液晶テレビに最適なフィルムに。

縦延伸 横延伸

縦延伸と横延伸を1ラインで実現

② 逐次2軸延伸法

斜め延伸位相差フィルム

高輝度・低反射・低コスト

あらゆる角度から差し込む外光の反射を高い水準で防止できることから、スマートフォンなどのモバイル用途で活用されている。

世界で唯一の斜め延伸する技術

③ 斜め延伸技術

TOPIC

生産拡大でマーケットの拡大に備える

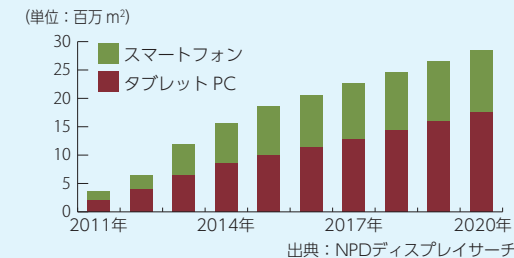
2013年10月、福井県敦賀市に斜め延伸位相差フィルムの新工場が竣工いたしました。中小型用フラットディスプレイ向けのさらなる需要拡大に応えるべく、2013年中の稼働を目指してまいります。



生産能力：約1,000万㎡/年

需要拡大でさらなる成長市場へ

生活に欠かすことができないアイテムとなりつつあるスマートフォンやタブレットPC。モバイル端末の市場は今後も順調に拡大を続けると予測されています。日本ゼオンでは、モバイル端末市場のマーケットの拡大を好機ととらえ、光学フィルムのシェアをさらに伸ばし、業界で確固たる地位を築いていく方針です。



会社基盤を支える事業

エラストマー素材事業部門

合成ゴム／合成ラテックス／化成品

売上高構成比 **61.5%**

売上高

921億67百万円

8.1%

(前年同期比)

売上高の推移

年度	中間期 (百万円)	通期 (百万円)
2010年度	86,306	174,825
2011年度	89,482	177,547
2012年度	85,296	164,028
2013年度	92,167	180,500(予想)

概要

合成ゴム
海外子会社における市況の悪化等の影響があったものの、円安を背景にした拡販が奏功し販売数量を伸ばしたことから、全体の売上高は前年同期を上回りましたが、営業利益は前年同期を下回りました。

合成ラテックス
一般工業用途向けの販売が堅調であったものの、手袋向け等の販売が低調であったことなどから、全体の売上高は前年同期を下回りましたが、営業利益は前年同期を上回りました。

化成品
国内市場での石油樹脂及び熱可塑性エラストマーの販売低調並びにタイ子会社での需要低迷の影響があったものの、モノマー販売が堅調に推移し、円安を背景に海外市場での販売も好調だったことから、全体の売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は921億67百万円(前年同期比8.1%増)、営業利益は106億54百万円(同2.6%減)となりました。

製品用途例

新規展開を中心とする事業

高機能材料事業部門

高機能樹脂・部材／情報材料／化学品／医療器材

売上高構成比 **22.0%**

売上高

330億4百万円

43.4%

(前年同期比)

売上高の推移

年度	中間期 (百万円)	通期 (百万円)
2010年度	28,902	53,906
2011年度	25,946	48,134
2012年度	23,019	51,411
2013年度	33,004	65,900(予想)

高機能樹脂・部材
高機能樹脂関連では、医療用途・光学レンズ用途の販売が堅調に推移しました。高機能部材関連も、テレビ向け光学フィルムが好調であったことに加え、モバイル向け光学フィルムの販売も堅調に推移し、数量及び売上高を伸ばしたことから、高機能樹脂及び部材全体では売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

情報材料
電池材料及びトナーは好調でしたが、電子材料などの売上高が前年同期を下回ったため、全体では売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

化学品
円安の影響に加え、特殊化学品において拡販活動が進んだことにより、全体の売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は330億4百万円(前年同期比43.4%増)、営業利益は54億8百万円(前年同期は2億59百万円の営業損失)となりました。

製品用途例

その他の事業部門

RIM 配合液・成形品／塗料／ブタジエン抽出技術等の販売 ほか

売上高構成比 **16.5%**

売上高

246億32百万円

24.4%

(前年同期比)

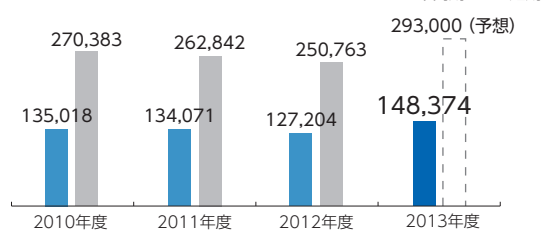
売上高の推移

年度	中間期 (百万円)	通期 (百万円)
2010年度	20,489	43,121
2011年度	19,641	39,057
2012年度	19,802	37,508
2013年度	24,632	49,200(予想)

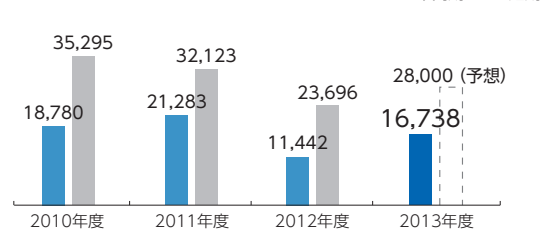
●商事部門の販売が減少したこと及び塗料事業の子会社化などにより、全体の売上高は246億32百万円(前年同期比24.4%増)、営業利益は6億79百万円(同10.0%減)となりました。

製品用途例

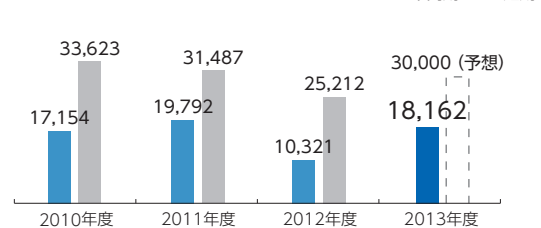
売上高 (単位：百万円)



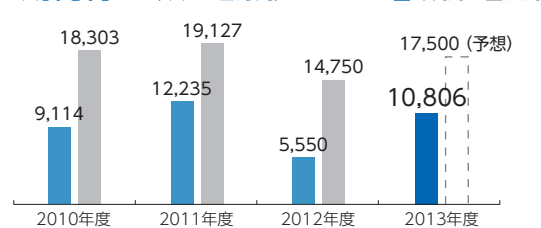
営業利益 (単位：百万円)



経常利益 (単位：百万円)

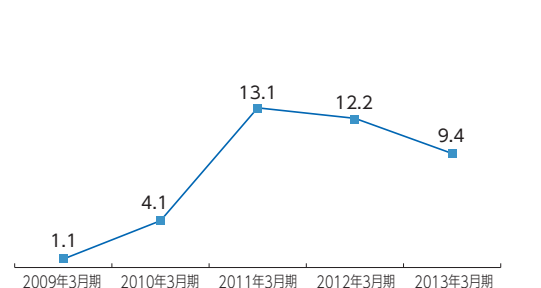


当期純利益 (単位：百万円)

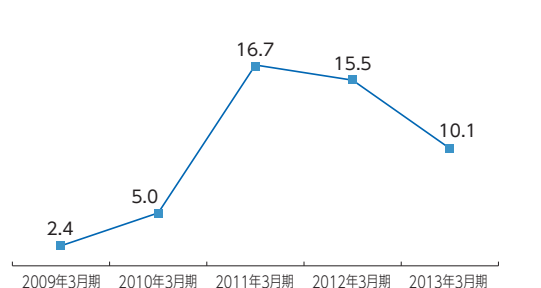


POINT ・海外子会社における市況の悪化等の影響があったものの、為替の影響や高機能材料の拡販等により売上高、営業利益ともに増加しました。
 ・投資有価証券評価損の減少等により特別損益が改善し、四半期純利益も増加しました。

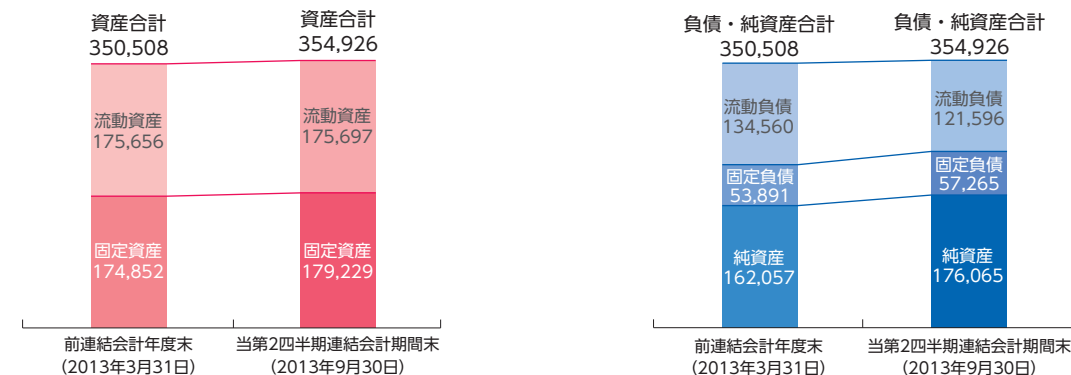
営業利益率 (単位：%)



ROE (自己資本当期純利益率) (単位：%)



連結貸借対照表 (単位：百万円)



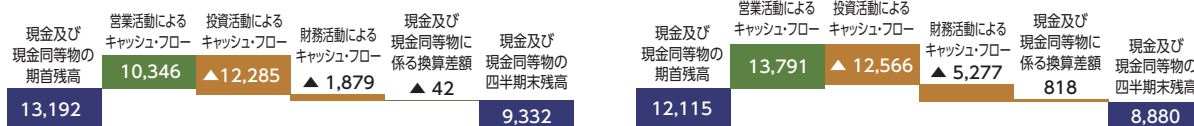
POINT 現金及び預金、未収入金、投資有価証券等が減少したものの、受取手形及び売掛金、たな卸資産、有形固定資産等の増加により、資産合計は前年度末に比べて増加しました。

POINT 未払法人税等が増加したものの、支払手形及び買掛金、有利子負債等が減少したことにより、負債合計は前年度末に比べて減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

前第2四半期連結累計期間 2012年4月1日～2012年9月30日

当第2四半期連結累計期間 2013年4月1日～2013年9月30日



POINT ・税金等調整前四半期純利益による資金の増加等により、営業活動で得られた資金は 137 億 91 百万円となりました。
 ・主として有形固定資産の取得に資金を振り向けた結果、投資活動で使用した資金は 125 億 66 百万円となりました。
 ・長期借入金の返済など有利子負債の削減等に努めた結果、財務活動で使用した資金は 52 億 77 百万円となりました。

【会社の概要】(2013年9月30日現在)

商号 日本ゼオン株式会社
(ZEON CORPORATION)
設立 1950年4月12日
資本金 242億1千1百万円
本社 〒100-8246
東京都千代田区丸の内1-6-2
新丸の内センタービル
電話 03(3216)1772
従業員 3,262名(連結)

【役員】

取締役会長	古河 直純	常務執行役員	井上 幹雄
取締役社長	田中 公章	常務執行役員	朝比奈 宏
取締役	伏見 好正 (★)	執行役員	梅澤 佳男
取締役	大島 正義 (★)	執行役員	今井 廣史
取締役	南 忠幸 (☆)	執行役員	西嶋 徹
取締役	武上 博 (☆)	執行役員	黒田 雄三
取締役	三平 能之 (☆)	執行役員	藤澤 浩
取締役	伊藤 晴夫	執行役員	古谷 岳夫
取締役	平川 宏之 (*)	執行役員	柳田 昇
取締役	伊藤 敬 (*)	執行役員	平川 慎一
常勤監査役	長谷川 純	執行役員	佐屋 利明
常勤監査役	岡田 誠一		
監査役	藤田 譲		
監査役	南雲 忠信		
監査役	森 信博		

(★)の取締役は専務執行役員を兼務しております。
(☆)の取締役は常務執行役員を兼務しております。
(*)の取締役は執行役員を兼務しております。

【株式の状況】(2013年9月30日現在)

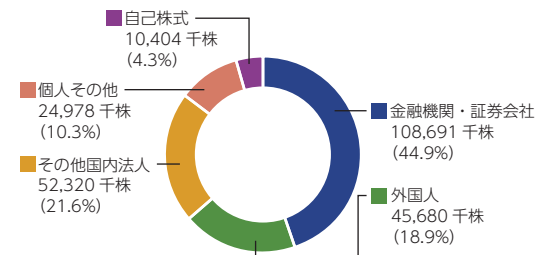
発行可能株式総数 800,000,000株
発行済株式の総数 242,075,556株
株主数 10,290名(前年度末比498名減)

【大株主】

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	議決権比率(%)
横浜ゴム株式会社	20,136	8.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,441	7.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,516	5.41
株式会社みずほ銀行	11,536	4.99
朝日生命保険相互会社	10,679	4.62
全国共済農業協同組合連合会	7,450	3.22
旭化成ケミカルズ株式会社	6,438	2.78
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C BRITISH CLIENTS	6,244	2.70
古河電気工業株式会社	5,594	2.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,457	2.36

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式10,404千株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

【所有者別分布状況】



【株主メモ】

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日 3月31日及び中間配当を行うときは9月30日
基準日 毎年3月31日(その他臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。)
公告方法 電子公告 <http://www.zeon.co.jp/>(ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)
株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同連絡先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-8507) 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

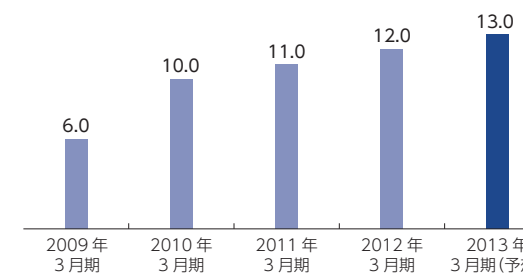
住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申出ください。

【配当金】(単位:円)



IR情報WEBサイトのご案内

決算発表スケジュールや決算説明会資料、株式事務のご案内などをご覧いただけます。どうぞ活用ください。

日本ゼオン IR 検索

<http://www.zeon.co.jp/ir/index.html/>

